

LINTEC WAVE

株主通信誌

JUNE 2025

97

社長インタビュー

長期ビジョンの実現に向けて 成長と変革を加速

代表取締役社長 社長執行役員

服部 真

第131期

(2025年3月期)

決算情報

証券コード：7966



波照間島（沖縄県）

「果てのウルマ（サンゴ礁）の島」を語源とする日本最南端の有人島。美しい自然が特徴で、独特の青い輝きを放つ海の色は「ハテルマブルー」と呼ばれる。

目次

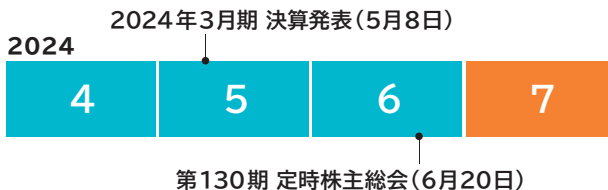
- 2 1年間の主な動き
- 4 社長インタビュー
長期ビジョンの実現に向けて
成長と変革を加速
代表取締役社長 服部 真
社長執行役員
- 8 研究開発特集
未来を創る研究開発の最前線
- 10 決算情報
- 12 セグメント情報
- 15 会社概要／役員一覧
- 16 主な連結子会社
- 18 株式情報
- 19 アンケートへのご協力をお願い

※当第3四半期連結会計期間において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る連結財政状態の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

（免責事項）

業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

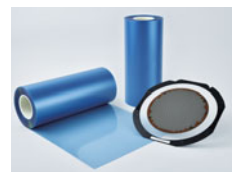
1年間の主な動き



- 4月1日
・新中期経営計画「LSV2030-Stage 2」がスタート



- 5月1日
・半導体チップの耐久性や信頼性を向上させるバン
プ保護フィルムを発売



- 7月27日
・大和インバスター・リレーションズ主催の個人投資家向け会社説明会に参加

- 8月26日
・自動車用ウインドーフィルムに高透明遮熱タイプの
の新アイテムを追加

- 9月3日
・企業版ふるさと納税を活用した福岡県への寄付
を発表



2025年3月期 第1四半期 決算発表(8月8日)

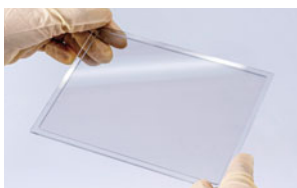


2025年3月期 第2四半期 決算発表(11月7日)

2025年3月期 第3四半期 決算発表(2月6日)

9月26日

- ・先端半導体向け材料「EUV露光機用ペリクル」の量産体制確立を加速



10月28日

- ・無漂白パルプの自然な色合いで高い撥水性を付与した未晒タイプのクラフト紙を発売



11月27日

- ・再生PET樹脂を100%使用したガラス用フィルムを開発

11月29日

- ・自己株式420万株の消却完了を発表

12月19～22日

- ・「第93回 全日本フィギュアスケート選手権大会」に協賛

2月6日

- ・2025年9月末までに300万株または100億円を上限に自己株式を取得することを発表

3月10日

- ・ホットメルト粘着剤を使用した繰り返し貼って剥がせるラベル素材「RE CHILL」を発売 ※P.8参照

3月27日

- ・特殊紙の新ブランド「解決紙」の立ち上げを発表

解決紙

リントックの特殊紙

Pick Up

リントックの製品や技術を分かりやすくまとめた会社案内動画を作成し、YouTubeの当社公式チャンネルに掲載しました。



※動画は当社ホームページからも御覧いただけます。

www.lintec.co.jp/movie/corporation_pr.html

長期ビジョンの実現に向けて 成長と変革を加速

当社グループでは2030年を見据えた長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (LSV 2030)」を掲げ、その実現に向けたマイルストーンとして2027年3月期を最終年度とする中期経営計画「LSV 2030-Stage 2」を推進しています。同計画の初年度となった前期の振り返りや今後の見通しについて服部社長に聞きました。



2030年3月期 財務指標

売上高営業利益率 **12%以上**

ROE (自己資本当期純利益率) **10%以上**

代表取締役社長
社長執行役員

はっとり まこと
服部 真

Q 最初に前期業績の振り返りをお願いします。

A 2025年3月期の世界経済は、米国では個人消費や設備投資などの伸びが拡大したことで底堅く推移しましたが、我が国においては訪日外国人の増加によるインバウンド効果があったものの食料品などの価格高騰による買い控えによって個人消費が低迷するなど、停滞感が続きました。このような情勢の下、当社グループにおきましては、売上高は半導体・電子部品関連製品が好調な需要に支えられ大幅に増加したことに加え、米国においてシール・ラベル用粘着製品の販売数量が回復したことなどもあり総

じて好調に推移しました。利益面では原燃料価格や物流コストが引き続き上昇傾向にあったものの、半導体・電子部品関連製品に加えて他の製品についても販売数量が増加したことによる増益効果がありました。この結果、売上高と営業利益ともに過去最高を更新することができました。なお、当社の洋紙事業を取り巻く事業環境において、受注の低迷やパルプ・薬品のコスト上昇など極めて厳しい状況が続いていることを踏まえ、洋紙事業の将来の回収可能性を検討した結果、減損損失を計上いたしました。

2025年3月期連結業績(前期比)

売上高

315,978百万円(14.4%増)

営業利益

24,562百万円(131.1%増)

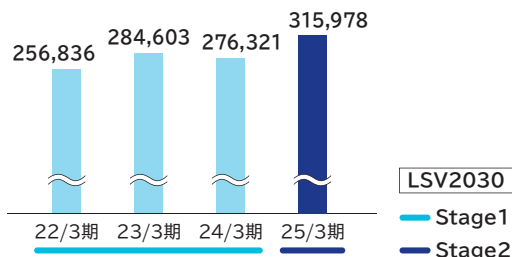
経常利益

26,090百万円(126.1%増)

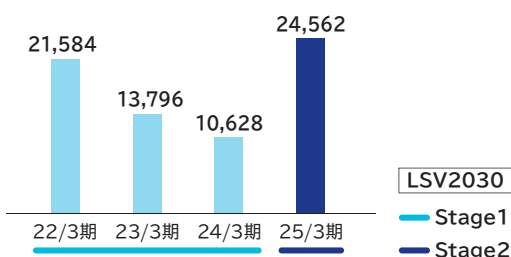
親会社株主に帰属する当期純利益

14,476百万円(176.1%増)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



Q 続いて前期の定性面での主な成果と今期の業績見通しについて教えてください。

A 前期はオプティカル材事業において偏光板の粘着加工事業を手がけていた韓国・台湾の生産子会社を解散し、洋紙事業においても減損損失を計上するなど、事業ポートフォリオの最適化の観点で収益の改善を図りました。また、設備投資面では需要の拡大が見込まれ、当社の成長をけん引する半導体・電子部品関連製品の生産能力を増強したほか、EUV露光機用ペリクルの量産体制確立に向けた活動など研究開発での取り組みも着実に推進しました。

2026年3月期につきましては、米国政府が実施する関税政策による世界経済への影響、地政学リスクの高まり、各国の金融政策による為替変動などが当社グ

ループの経営環境に大きな影響を及ぼすと見ています。こうした世界情勢に加えて、原燃料や輸送コストの上昇、人件費や新規生産設備導入による減価償却費などの固定費増加が利益を押し下げる要因となることもあり、業績予想は増収減益としています。

2026年3月期連結業績予想(前期比)

売	上	高	3,170億円 (0.3%増)
営	業	利 益	240億円 (2.3%減)
経	常	利 益	240億円 (8.0%減)
親会社株主に帰属する 当期純利益			180億円(24.3%増)

Q 株主還元についてはどのようにお考えですか。

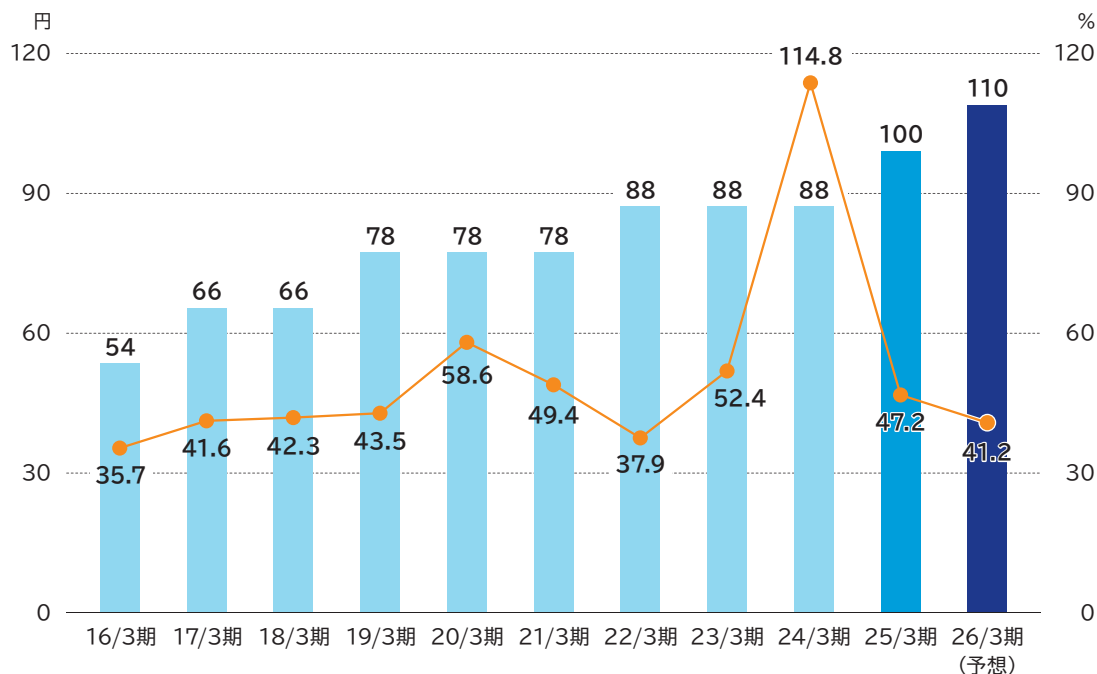
A 当社では、「Stage 2」の最終年度である2027年3月期までは原則として減配せず、配当性向40%以上またはDOE(株主資本配当率)3%を目途に配当を行うこととしています。

前期の年間配当金は、業績が好調であったことから当初予想の88円から12円増額の100円とさせていただきました。今期につきましては通期連結業績予想を

踏まえ、前期から10円増額の110円を予定し、配当性向は41.2%となる見込みです。また、2025年2月には株主還元の一環として、300万株または100億円を上限とする自己株式取得を決議し、本年9月末までを期間として取得を進めています。当社は株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題の一つに位置づけており、今後も充実を図ってまいります。

1株当たり配当金の推移

■ 配当金 ● 配当性向(右目盛り)



最後に株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

「Stage 2」の2年目となる今期は前期の好調と力強さを維持しつつさらなる高みを目指し、成長と変革を加速することで、いかなる経営環境にあっても揺るぎのない強靱な企業へと変貌を遂げていきます。最終年度(2027年3月期)に掲げた売上高営業利益率やROEなどの経営目標を達成すべく、成長事業に対する積極的な投資や資産・資本効率の改善、事業ポートフォリオの最適化などに引き続き積極的に取り組み、継続的な

PBR(株価純資産倍率)1倍超えを目指してまいります。

株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2027年3月期(最終年度)経営目標

売上高営業利益率

8%以上

ROE(自己資本当期純利益率)

8%以上

未来を創る研究開発の最前線

当社は成長をけん引する半導体関連製品をはじめ、社会的ニーズの高い環境配慮製品などの開発を積極的に推進しています。今号では、3月に発売した環境配慮ラベル素材のほか、新製品・新事業の創出に向けた研究所での取り組みをご紹介します。

ホットメルト粘着剤を使用したラベル素材の新製品「RE CHILL」^リ_{チル}を発売

ホットメルト粘着剤とは、熱で溶かしながら塗工する常温固形タイプの粘着剤のことで、塗工時に有機溶剤を使用しないため環境負荷が少なく、乾燥工程も不要なことから製造時のCO₂排出量が少ないことが特徴です。米国子会社のマックタック・アメリカ社が保有する粘着剤処方技術で、当社では同社が展開するラベル素材「CHILL AT」^{チル}_{エーティー}を国内市場に本格投入して以降、同粘着剤を使用した製品ラインアップを順次拡大してきました。

今回発売した「RE CHILL」の特徴は-5℃までの低温環境下でも貼付可能で、繰り返し貼って剥がせる再剥離性・再貼



食品や日用品、工業用品など幅広い用途に使用可能

付性を持つことです。一般のラベル素材では貼り付きにくい結露面や油面に貼付可能で、使用後は剥がしやすいため容器などのリサイクル促進にもつながります。多機能性を生かし、幅広い用途に提案しています。



製品研究部 粘着材料研究室

まえだ たいせい
前田 泰聖

“若手開発担当者”より一言

「RE CHILL」の開発では、繰り返し使用するための粘着力と再剥離性を両立させるために粘着剤の最適な処方比率を導き出すことが、大きなテーマになりました。機械学習ツールを活用して粘着剤の材料種が性能に与える影響を解析するなど、経験や勘だけに頼らない開発手法を取り入れることで、最短ルートで発揮したい性能を実現することができました。今回の製品化に満足せず、さらなる改良を重ねることで、ホットメルト粘着剤を用いた製品の可能性を広げていきます。

新製品・新事業の創出へ、キーワードは “イノベーション”

■ 研究員の自由な発想を尊重

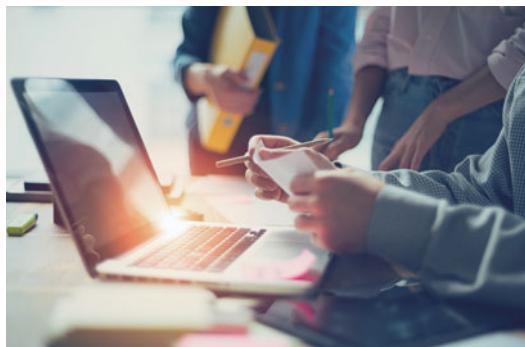
当社が業界のトップランナーであり続けるためには、新技術・新事業の創出に絶え間なく取り組む必要があります。研究所でその中心的役割を担う組織が、イノベーション推進部です。同部署は研究開発活動の最適化や新事業創出のための仕組みづくりを主導しており、その一つに「RIC」があります。R&D Innovation Challengeの頭文字である「RIC」は、新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的・企業的に大

きな変化をもたらすことを目指す研究所独自の取り組みです。研究員が自身の自由な発想に基づく新製品開発や研究開発効率向上などのテーマを設定し、業務時間の30%を上限に、イノベーション活動に挑戦できます。2022年に始まった取り組みですが、国際学会で受賞を果たす技術が生まれたり、生産性向上に役立つシステムが開発・実装されたりするなど、イノベーションへの機運が確実に高まっています。

■ 企業間のコラボレーション活動を強化

外部との共創によるオープンイノベーションにも乗り出しています。インキュベーションセンター「ARCH^{アーチ}」への参画はその一例です。同センターは新規事業の創出をミッションとした施設で、同じ目的を持つ幅広い業種の企業が会員として参加しています。当社は会員企業とのコミュニケーションを通じて共創テーマの発案を試みており、当社が蓄積してきた技術・製品が全く新しい用途や分野における課題解決の糸口になることが分かりました。得られたアイデアは研究所や各事業部門に連携することで、知の共有と事業化への確度を高めています。現代は不確実性の時代と呼ばれ、社会・顧客が求めるニーズも多様化

する中、企業間の共創活動は重要性を増しています。当社は従来から連携してきた大学や研究機関に加え、企業間のコラボレーションも強化することで、多角的視点で新製品・新事業の創出を目指していきます。



連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
流動資産	192,767	187,977
固定資産	147,703	145,612
① 資産合計	340,471	333,590
流動負債	69,989	75,918
固定負債	24,355	24,751
② 負債合計	94,345	100,669
③ 純資産合計	246,126	232,920
負債純資産合計	340,471	333,590

連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
④ 売上高	315,978	276,321
売上総利益	79,844	61,407
販売費及び一般管理費	55,282	50,779
⑤ 営業利益	24,562	10,628
経常利益	26,090	11,537
税金等調整前当期純利益	18,753	9,452
⑥ 親会社株主に帰属する当期純利益	14,476	5,243
包括利益	22,653	11,602

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,715	39,205
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,666	△21,512
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,332	△1,288
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,591	1,954
現金及び現金同等物の期末残高	50,703	52,396

① 「のれん」の減少などがありましたが、「棚卸資産」や「繰延税金資産」の増加などにより、総資産は68億81百万円増加しました。

② 「支払手形及び買掛金」や「長期借入金」の減少などにより、負債は63億24百万円減少しました。

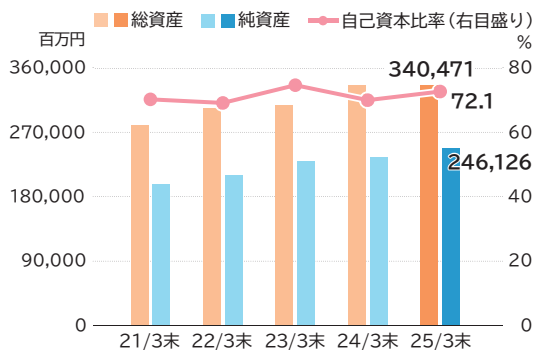
③ 円安の進行による「為替換算調整勘定」の増加などにより、純資産は132億6百万円増加しました。

④ 半導体・電子部品関連製品が好調な需要に支えられ大幅に増加したことに加え、米国においてシール・ラベル用粘着製品の販売数量が回復したことなどにより、売上高は396億57百万円増加しました。

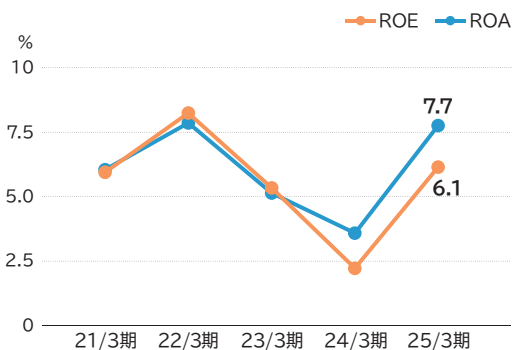
⑤ 原燃料価格や物流コストは引き続き上昇傾向にあったものの、半導体・電子部品関連製品に加えて他の製品についても販売数量が増加したことにより、営業利益は139億33百万円増加しました。

⑥ 洋紙事業において減損損失を計上したものの、営業利益が増加したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は92億32百万円増加しました。

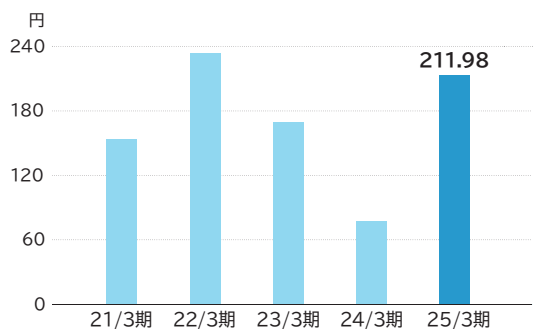
総資産・純資産・自己資本比率



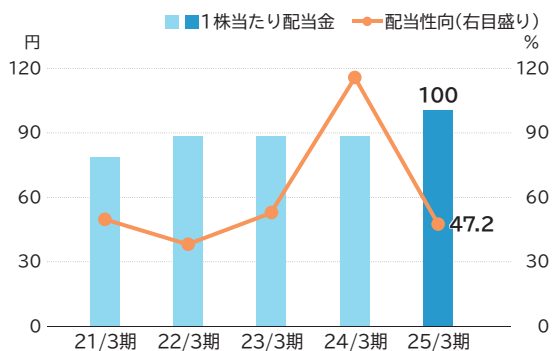
ROE (自己資本当期純利益率)・ROA (総資産経常利益率)



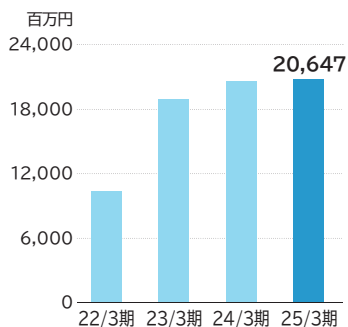
1株当たり当期純利益



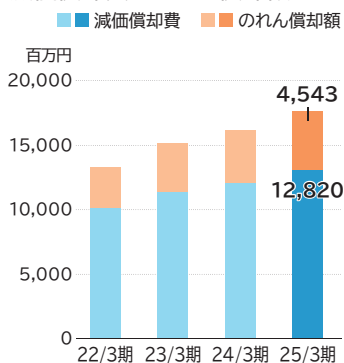
1株当たり配当金・配当性向



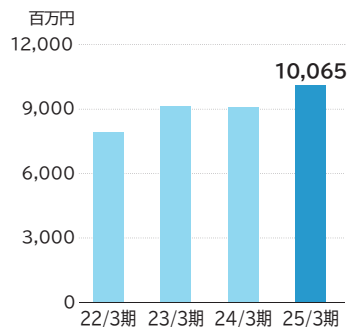
設備投資額



減価償却費・のれん償却額



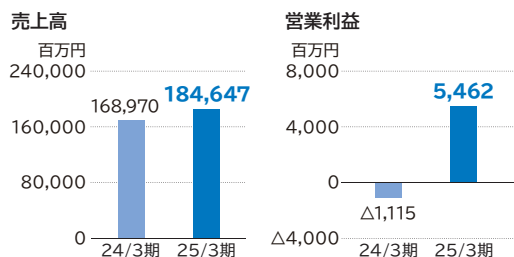
研究開発費



印刷材・産業工材関連 (前期比)

売上高 **1,846億47百万円** (9.3%増)

営業利益 **54億62百万円** (－)



印刷情報材事業部門 (前期比)

売上高 **1,466億65百万円** (10.1%増)

主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム



産業工材事業部門 (前期比)

売上高 **379億81百万円** (6.1%増)

主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム



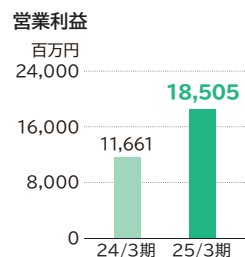
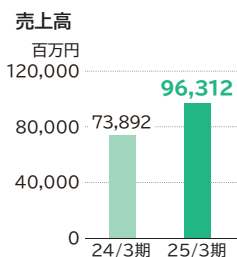
事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- 印刷情報材事業部門はシール・ラベル用粘着製品が、国内では物価高騰の影響により食品関連を中心に需要が減少したほか、アイキャッチラベルや飲料キャンペーン用なども総じて低調に推移しました。海外では米国で買収効果により販売数量が大幅に増加したほか、中国やアセアン地域においても堅調に推移しました。
- 産業工材事業部門は国内では自動車生産台数減少の影響を受け自動車用粘着製品やウィンドーフィルムが低調に推移しました。海外では米国で防犯用ウィンドーフィルムやスパッタリングフィルムが好調であったほか、インドで自動車用粘着製品が増加しました。
- セグメント営業利益は米国で販売数量が大幅に増加した効果もあり、前期に比べ増加しました。

電子・光学関連(前期比)

売上高 **963億12**百万円 (30.3%増)

営業利益 **185億5**百万円 (58.7%増)

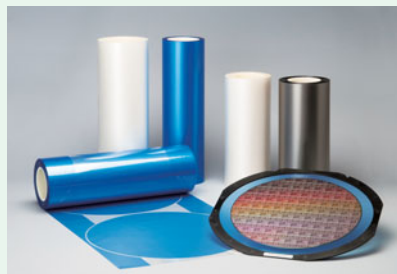


アドバンストマテリアルズ事業部門(前期比)

売上高 **850億8**百万円 (41.7%増)

主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ



オプティカル材事業部門(前期比)

売上高 **113億3**百万円 (18.8%減)

主要製品

- 光学ディスプレイ関連粘着製品



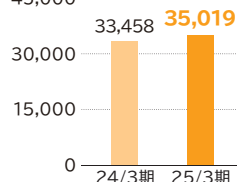
事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- アドバンストマテリアルズ事業部門は半導体関連粘着テープが生成AI関連の需要増加などにより好調に推移しました。また、半導体関連装置についてもHBM製造用などで大幅に増加しました。積層セラミックコンデンサ関連テープはスマートフォンやデータセンター向けなどの需要増加により大きく伸長しました。
- オプティカル材事業部門はOLEDスマートフォン用粘着テープが堅調であったものの、韓国・台湾子会社の閉鎖の影響もあり売上高は大幅に減少しました。
- セグメント営業利益は半導体関連粘着テープや装置の売り上げが増加したことにより、前期に比べ増加しました。

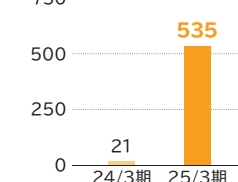
洋紙・加工材関連 (前期比)

売上高 **350億19**百万円 (4.7%増)営業利益 **5億35**百万円 (2,443.1%増)

売上高

百万円
45,000

営業利益

百万円
750

洋紙事業部門 (前期比)

売上高 **148億76**百万円 (3.0%減)

主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 建材用紙



加工材事業部門 (前期比)

売上高 **201億42**百万円 (11.1%増)

主要製品

- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- 洋紙事業部門はクリーンペーパーや耐油耐水紙が堅調に推移したものの、主力のカラー封筒用紙や色画用紙、建材用紙が需要減少により低調に推移しました。
- 加工材事業部門は電子材料用剥離紙や光学関連製品用剥離フィルムがスマートフォン用などの需要増加により好調に推移したほか、合成皮革用工程紙やレジャー用の炭素繊維複合材料用工程紙も増加しました。
- セグメント営業利益は洋紙事業部門が厳しい結果となりましたが、加工材事業部門の販売数量増加などにより、前期に比べ増加しました。

※ セグメント別の営業利益はセグメント間取引消去前の数値に基づいています。

会社概要 (2025年3月31日現在)

社名	リンテック株式会社（英文：LINTEC Corporation）
本社	東京都板橋区本町23-23
設立	1934年10月15日
資本金	233億5,598万1,761円
上場	東京証券取引所プライム市場
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	連結：5,311人 単体：2,629人
事業所	営業拠点：東京、札幌、名古屋、大阪、福岡など全国11か所 生産拠点：吾妻（群馬県）、熊谷・伊奈（埼玉県）、千葉（千葉県）、 龍野・新宮（兵庫県）、小松島（徳島県）、三島・土居（愛媛県） 研究拠点：蕨・さいたま（埼玉県）
連結子会社	国内：3社 海外：37社

役員一覧 (2025年6月20日現在)

取締役			執行役員		
代表取締役会長		大内 昭彦	専務執行役員		持田 欣也
代表取締役社長	社長執行役員	服部 真	常務執行役員		月田 達也
取締役	専務執行役員	海谷 健司	常務執行役員		峯浦 芳久
取締役	専務執行役員	松尾 博之	執行役員		西角 尚志
取締役	専務執行役員	吉武 正昭	執行役員		所司 悟
取締役	常務執行役員	柴野 洋一	執行役員		妹尾 秀男
取締役（社外）		佐野 孝典	執行役員		三宅 英樹
取締役（社外）	独立	奥島 晶子	執行役員		山本 直樹
取締役（社外）	独立	白幡 清一郎	執行役員		青木 智
			執行役員		沼澤 英樹
			執行役員		川上 豪毅
			執行役員		喜井 大介
			執行役員		木村 慶太
			執行役員		清水 充
			執行役員		京極 昌一
			執行役員		星 優
			執行役員		瀬川 丈士
			執行役員		竹内 栄一郎
			執行役員		山下 淳史
監査等委員である取締役					
取締役／監査等委員		木村 雅昭			
取締役（社外）／監査等委員	独立	大澤 加奈子			
取締役（社外）／監査等委員	独立	杉本 茂			

主な連結子会社 (2025年3月31日現在)

イギリス United Kingdom

■ LINTEC EUROPE (UK) LIMITED

オランダ Netherlands

■ LINTEC EUROPE B.V.

ドイツ Germany

■ LINTEC ADVANCED TECHNOLOGIES
(EUROPE) GMBH

中国 China

■ 琳得科(蘇州)科技有限公司
LINTEC (SUZHOU) TECH CORPORATION

■ 普林特科(天津)標籤有限公司
LINTEC PRINTING & TECHNOLOGY
(TIANJIN) CORPORATION

■ LINTEC ADVANCED TECHNOLOGIES
(SHANGHAI), INC.

韓国 Korea

■ LINTEC KOREA, INC.

■ LINTEC ADVANCED TECHNOLOGIES
(KOREA), INC.

インド India

■ LINTEC INDIA PRIVATE LIMITED

タイ Thailand

■ LINTEC (THAILAND) CO., LTD.

マレーシア Malaysia

■ LINTEC INDUSTRIES (MALAYSIA) SDN. BHD.

■ LINTEC INDUSTRIES (SARAWAK) SDN. BHD.

■ LINTEC KUALA LUMPUR SDN. BHD.

■ LINTEC ADVANCED TECHNOLOGIES
(MALAYSIA) SDN. BHD.

シンガポール Singapore

■ LINTEC ASIA PACIFIC REGIONAL
HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED

■ LINTEC SINGAPORE PRIVATE LIMITED

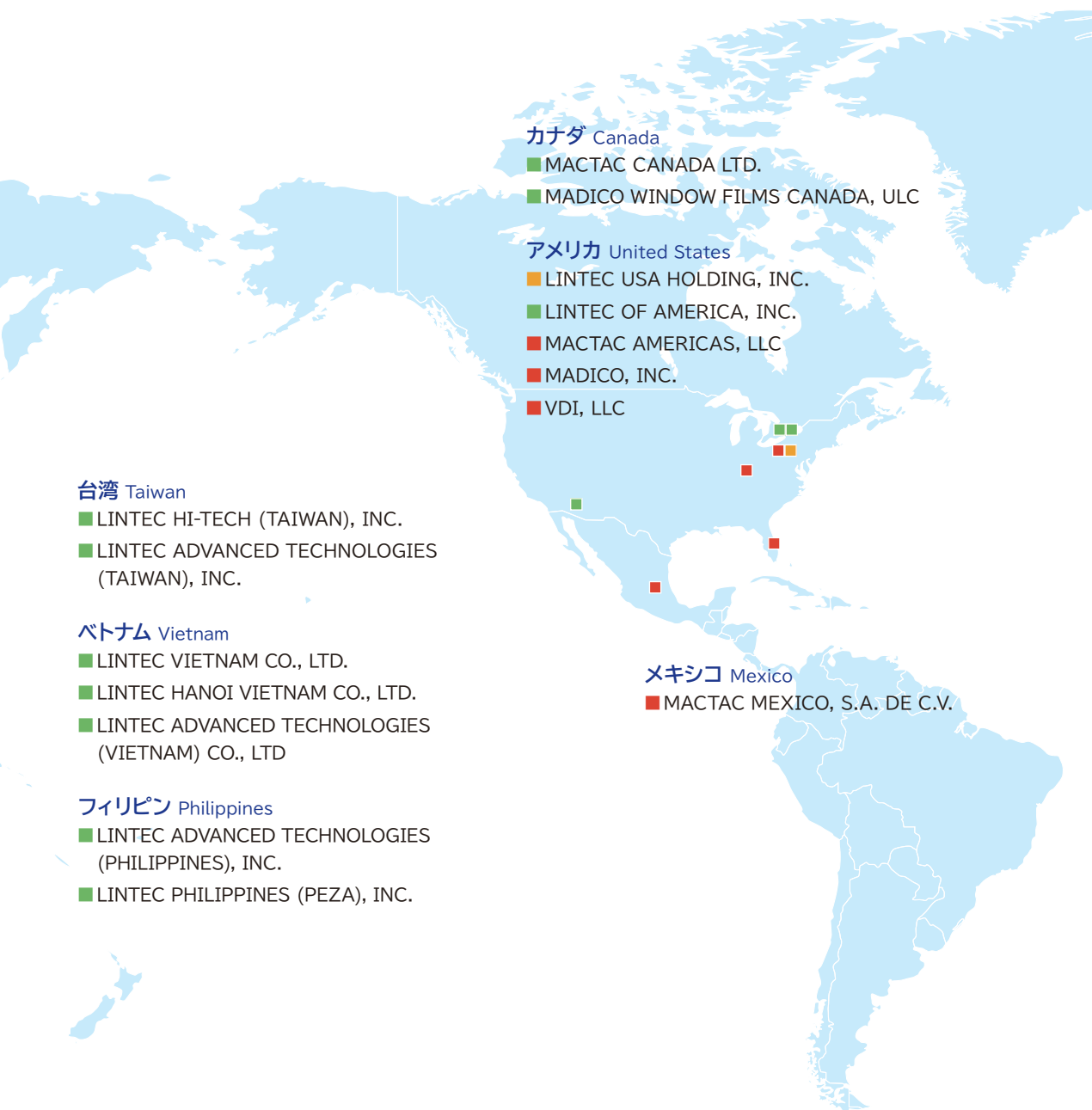
■ LINTEC ADVANCED TECHNOLOGIES
(SINGAPORE) PRIVATE LIMITED

インドネシア Indonesia

■ PT. LINTEC INDONESIA

■ PT. LINTEC JAKARTA

■ PT. MULTIYASA SWADAYA



■ 生産子会社 ■ 販売子会社 ■ 地域統括会社

株式情報 (2025年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数 (ただし自己株式を除く)	67,345,691株
単元株式数	100株
株主数	9,311人



IRメール配信サービスのお知らせ

当社では新製品情報なども含め、株主・投資家の皆様へさまざまなニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスをご提供しています。配信をご希望の方は、当社IR情報サイトよりご登録をお願いいたします。



スマートフォンなどでこの二次元コードを読み取ると、登録ページへ簡単にアクセスできます。

www.lintec.co.jp/ir_mail

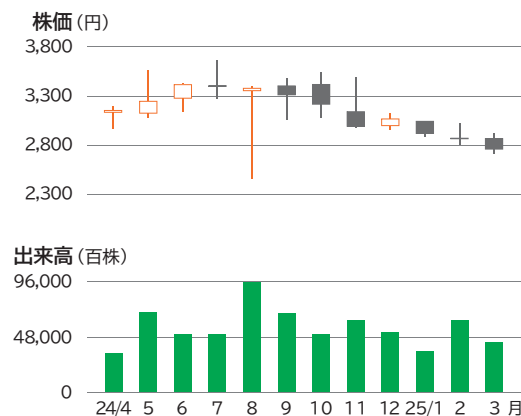
大株主の状況 (上位10位)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本製紙株式会社	20,553	30.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,629	9.84
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,595	6.82
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,404	2.08
庄司 たみ江	1,296	1.92
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,282	1.90
リンテック従業員持株会	1,228	1.82
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	1,098	1.63
塩飽 恵以子	963	1.43
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	893	1.32

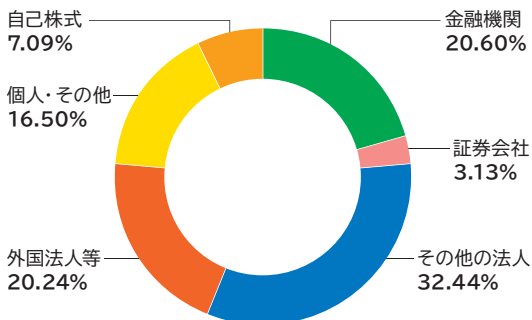
注1. 当社は自己株式5,143,049株を保有しておりますが、上記表からは除外しております。

注2. 持株比率の算定に当たっては、自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移 (2024年4月~2025年3月)



所有者別分布比率



アンケートへのご協力をお願い

当社では、より質の高いIR活動を推進していくために、読者の皆様のご意見やご要望を幅広くお聞かせいただきたいと考えております。つきましては、添付のはがき、またはインターネット（裏表紙参照）にてご回答いただけましたら幸いです。何とぞご協力のほどお願い申し上げます。（2025年9月30日締め切り）

質問 1 当社株式への投資についてご質問します。

① 当社株式を保有されていますか？ それは何株ですか？

ア. 5千株以上 イ. 1千株～5千株未満 ウ. 200株～1千株未満 エ. 100株～200株未満 オ. 100株未満
カ. 保有していない ※「カ」を選ばれた方は質問2にお進みください。

② 保有期間はどのくらいですか？

ア. 10年以上 イ. 5年～10年未満 ウ. 3年～5年未満 エ. 1年～3年未満 オ. 1年未満

③ 当社株式の購入のきっかけは何ですか？（複数回答可）

ア. 新聞やネットニュースの記事 イ. 「会社四季報」などの投資情報誌 ウ. 新NISA制度の開始
エ. 個人投資家向け会社説明会への参加 オ. 証券会社からの情報
カ. 新聞広告やYouTubeの当社公式チャンネル キ. 自分や知人が勤めている（いた） ク. その他（ ）

④ 当社の株主還元策として最も期待することは何ですか？ 一つだけお選びください。

ア. 適正株価の形成 イ. 安定配当 ウ. 業績連動型配当 エ. 株主優待の導入
オ. 自社株買い カ. その他（ ）

⑤ 当社株式の今後の保有方針について一つだけお選びください。

【保有方針】

ア. 現状のまま継続保有 イ. 買い増しして継続保有 ウ. 一部売却して継続保有
エ. 全て売却する予定（もしくは売却済み） ※「ア～ウ」を選ばれた方は以下についてもご回答ください。

【保有期間（予定）】

ア. 長期（5年以上） イ. 中期（3年～5年未満） ウ. 短期（3年未満）

質問 2 当誌「LINTEC WAVE」（以下「WAVE」）や当社の広報・IR活動についてご質問します。

① 今号の「WAVE」で興味深かったページ、分かりにくかったページがあれば教えてください。（複数回答可）

ア. 1年間の主な動き イ. 社長インタビュー ウ. 研究開発特集 エ. 決算情報
オ. セグメント情報 カ. 主な連結子会社

② 「WAVE」に掲載してほしい情報は？（複数回答可）

ア. 経営方針・戦略 イ. 事業内容 ウ. 製品・技術情報 エ. サステナビリティ情報 オ. 拠点の情報
カ. 社員紹介 キ. その他（ ）

③ 当社のIR活動・施策について期待されるものは何ですか？（複数回答可）

ア. ホームページの情報充実 イ. 個人投資家向け会社説明会の実施 ウ. 株主向けイベント（工場見学会等）の実施
エ. 「WAVE」の充実 オ. メディアへの露出 カ. SNSの活用 キ. その他（ ）

④ 当社新聞広告を御覧になったことはありますか？

ア. ある 新聞名（ ） イ. ない ウ. 新聞を購読していない

質問 3 当社へのご意見・ご要望、「WAVE」や広告についてのご感想などをぜひお聞かせください。（記述回答）

株主メモ

定 時 株 主 総 会	6月
配 当 基 準 日	期末：3月31日 中間：9月30日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
・郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・フリーダイヤル	☎ 0120-232-711
・ホームページアドレス	www.tr.mufg.jp/daikou
住所変更、単元未満株式の 買取・買増等のお申し出先 について	株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
未払配当金の支払いについて	株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
株主総会資料の電子提供制度開始に 伴う書面交付請求に関するご案内	株主総会資料の書面での交付を希望される場合は、株主様の口座のある証券会社または株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
法定公告掲載ホームページアドレス	www.lintec.co.jp/ir/stock/koukoku.html



2026年版オリジナルカレンダープレゼントのお知らせ

本誌19ページの読者アンケートにお答えいただいた皆様には、後日、当社オリジナルカレンダーを送付させていただきます。本誌付属のはがき（切手不要）かインターネット（下記二次元コードからアクセス）でご回答いただけますので、ぜひご協力ください。

- 回答はお一人につき1件まで有効とさせていただきます。



www.lintec.co.jp/enq97

2025年9月30日締め切り



※画像は2025年版カレンダー



リンテック株式会社 *Linking your dreams*

● 本社 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
URL www.lintec.co.jp

発行 広報・IR室 2025年6月
TEL. (03) 5248-7741
FAX. (03) 5248-7754



ユニバーサルデザイン(UD)の
考えに基づいた見やすいデザ
インの文字を採用しています。

社名の由来は、リンケージ（結合）とテクノロジー（技術）。ロゴマークは、地球を表す楕円にLINTEC・LINKAGE（結合）・LOYALTY（誠実）の三つの「L」で表現したウェーブ（波）を組み合わせデザイン。世界を舞台に飛躍していこうという決意を込めています。